

# 村野藤吾記念会

Togo Murano Committee

## 第19回村野藤吾賞

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

設計者 栗生 明

長崎に投下された原子爆弾により死没した人々を追悼し、永遠の平和を祈念するために長崎平和公園に建設された国の施設である。

この公園には既にいくつかの被爆に関わる施設が集中しており、周辺からは復興した市街地が迫り、都市交通も多い。決して十分とはいえない広さと、公園としての物理的制約の中で、緑化環境をつくりながら、この施設に期待されているテーマに応えることは容易なことではない。

作者は、死没者の遺族をはじめとする、一般の来訪者に、十分とは言えない周囲の中で、静かな深い祈りの空間をみごとにつくりあげた。

白樺の高刈り込みで敷地を囲み、周辺の雑然とした都市施設や車の流れを消して、ここに迫る小高い山々の景観を引き入れて、静謐な場所を確保した。

建築のほぼ全てを地下に没入し、その地上を、静かに風紋をひろげて全周に流れ落ちる円形水面とし、決して大空間ではないが、人々が心を鎮めて巡り、歩を休めて佇み、祈りを集中するものとしている。

追悼施設はその水盤下の地階に展開している。地上の水面を切り込む開口により、天空の光と地上からの視線を導入して、明るさと翳が流れる内密な空間をつくる。

そこに歩を入れて止まり、また静かに巡行するとき、その道行のところどころに配された水は、犠牲者に捧げられたものに違いない。

地上の大水盤の水深は浅く数センチメートル、その床面の石敷に埋め込まれた7万余の光ファイバーの光源が小さく光る。それは正確なグリッド状に配されている。

その一つ一つの光源からの光は、水面に向かって逆円錐の微光となってゆらぐ。“心に平和があれば世界は平和になる。”無名の一修道女の言葉を思いおこす。

村野藤吾記念会 代表 池原義郎